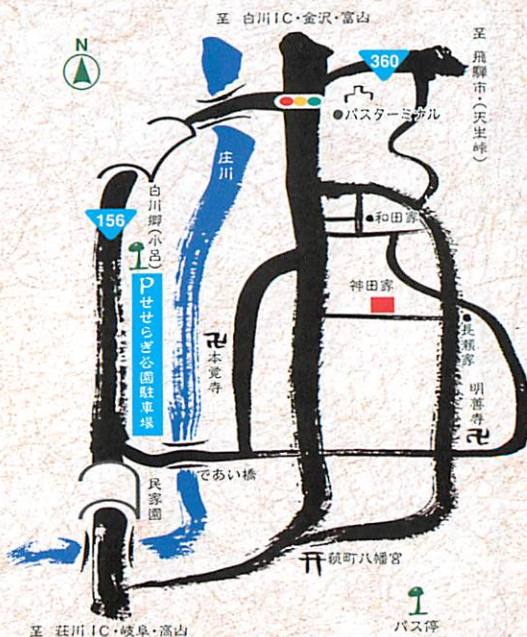


The world heritage
SHIRAKAWA-GO

世界文化遺産 飛騨白川郷



神田家



- 開館時間:午前9:00~午後5:00
- 休館日:不定期
(但し12月~2月:水曜日定休、3月~11月:第4水曜日定休)

神田家

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町796番地
TEL05769-6-1072・FAX05769-6-1704
<http://kandahouse.web.fc2.com/> e-mail:kanda-ke@csc.jp



白川郷と神田家

岐阜県北部、庄川の源流部に位置する白川村の合掌造り集落は、一九九五年(平成七年)十二月、ユネスコの世界遺産に登録されました。世界遺産となった集落の中でも、一四軒と最も多く合掌造りの残る荻町の原型は、中世初頭にはすでに形成され、一四六〇年(寛正元年)内ヶ島氏家臣、荻町城主山下氏勝の入郷によって発展したと伝えられています。

当合掌造りは江戸後期に石川県の宮大工により十年の歳月をかけて建造されたと云われています。それまでの合掌造りの構造を受け

継ぎながらも、新しい技術を取り入れ改良し、完成度の高いつくりと評されています。合掌造り民家では主に「養蚕」が行われていたが、さらに当家の床下では火薬の原料となる「煙硝づくり」を行い、貴重な現金収入の源となっていました。合掌造りは家族が生活する反面、養蚕業・煙硝づくりといった労働集約業務をこなすには適した形態であり、一九三五年(昭和十年)来村したドイツの建築家ブルーノ・タウトは「合理的・論理的な独特の構造」と合掌造りを高く評価しました。

桶架倉(はさぐら)



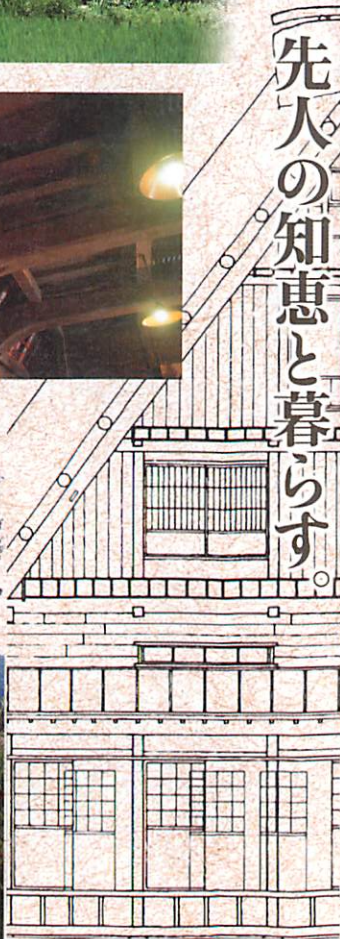
四階

雪の重みで根元が曲がって育った丈夫な木を利用した梁



チョチョバリ(曲梁)

竜神さま



先人の知恵と暮らす

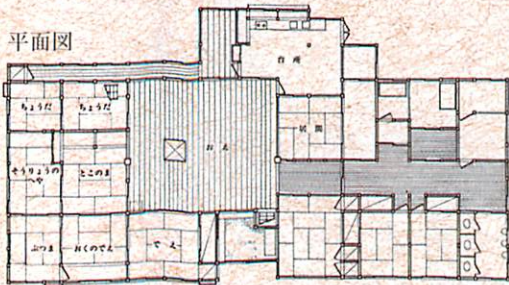
いろり



古と同居する。

いじしえ

平面図



駒尻(耐震木組)

合掌屋根を支える材で、強風や地震の時、屋根にかかる力を分散させる。



唐臼小屋

二階展示場



中二階火見窓

囲炉裏の火の用心をするための小窓



中二階



耐震、防火、雪対策...
その「つくり」には時間と生活の中から学び得た知恵があります。
白川郷は今なお、継承と保存と暮らしが同居する呼吸する遺産である。